



Phillyで出会ったHousemates & 友達と

ました。いろんな考えの人、つまり異なる国、文化、人種、民族、社会的身分の人と交わることは、自分の知識を豊かにすることができるだけでなく、なりより自分自身を知ることができると思っています。彼らと交流していくうちに、自分とは異なる部分、共通する部分が浮かび上がってきて、何が正しいのかではなく、自分は何なのかを強く意識するようになりました。これを機として、文化人類学にも興味を抱くようになりました。また、自分は、2人の友人と特にうち解けることができました。1人は最初のセメスターの時のルームメイトのMatt。そして、もう1人は、フィラデルフィアに居たとき親しくなったトルコ出身のCem。Mattには帰国日に空港まで送ってもらったりと彼のHospitalityを知らされました。Cemとは、同じクラスを受講するだけでなく、休日遊びに出かけたり、生活を共に過ごしていました。もし日本に彼らが来たら、もてなしの心意気を披露したいものです。ネットワークは自分を表すひとつの糧であり、より生活を魅力的なものにしてくれるものであると感じました。様々な人とのつながりを通じて、自国の文化をもっと真剣に知ると共に、国境を越えた交流をさらに大事にしていきたいと考えています。

## 語学力

ここで、語学力について軽く触れておきます。語学力の向上が私の中での大きな目標でありました。しかし、今振り返ってみると、まだまだ語学に対しては課題が山積みです。特に、私の中で課題が残ったのはスピーキングです。日常会話は困ることなくこなせるようになりましたが、専門的な知識の討論やビジネスレベルで難なくこなせるまで上達したかについては疑問があります。恐らく、瞬時には返答しかねると思います。しかし、幸いにも自分にあと何が足りないかについての目測を立てることができたので、その課題を着々とこなして向上させていくしかないと思います。ちなみに母国の日本語ですら高度の運用になると難しいですね。英語にしても日本語にしても常に見慣れない言葉をみたら調べる好奇心が重要だと思います。「あの単語どういう意味なんだろう」といったように。

### 伊藤 直人

いとう なおと

早稲田大学社会科学部3年

千葉県出身。昨年8月よりミシガン州 Hope College に留学。

今回の体験を今後にどのように活かしていきたいかに関してですが、今後の展望としては、ロースクールへの進学を目指しています。私は、渡米する前に自身の将来の展望について明確な答えを持つことができず、ただ闇雲に就職か進学という曖昧な考えだけ抱いていました。私は、前期のクラスで American Judiciary の基礎を学び、後期のリーガルインターンシップで司法の実務社会を体験することによって、現在の意志に至っています。特に影響が大きかったのが、インターンシップで垣間見ることができた訴訟弁護士の多忙さと面白さ。刑事事件において、多くの被告人は金銭的な事情から Public Defender によるサービスを受けています。この点については、日本にそのまま当てはまりかねると思います。可能性がないとは言いきれませんが、忙しいと言いながら、彼らの表情がすごく生き生きしていたのがとても印象的でした。自分を必要としている人が大勢いるという自負心と責任感からくるのではないのかなとそのとき感じました。それに、犯罪は非常に社会の状況に反映しているところが大きいと思います。社会の構造にも関心を持つ自分にとっては、願ってもない職場だと意識するようになりました。もし機会があるのなら、国境を越えて仕事をしてみたいです。

約1年間という期間でしたが、何もかもが初めてで、何もかもが目新しく、何もかもに対して不安を抱いて過ごした、いわば、新鮮な感覚で勉強できたことは自分のこれからの成長にとって非常に有意義なことだと確信しています。前日も書きましたが、何事にもまずチャレンジしてみることが本当に重要ではないでしょうか。結果が、良い方向へむかったとしても、あるいはそうではなくても、その経験は必ず自分の人生の糧となると信じています。結果を変えることはできないですが、結果を振り返ることはできます。最後に、自分の好きな高橋歩さんの言葉をお借りして締めくくりたいと思います。

「足踏みしても、靴の底は減るぜ」

末筆ながら、お世話になった松本先生を始め、今まで読んでくださった方、ありがとうございました。皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。また、何かご意見・ご感想等ございましたら [tinano.bahamas@naoto-ito.net](mailto:tinano.bahamas@naoto-ito.net) までご連絡いただけたら幸いです。

それでは、Ciao!



ルームメイトの Matt と空港にて

執筆日 平成19年6月2日



伊藤君の最後のレポートです。3回だけでしたが、学校生活に加えて、法律事務所でのインターンシップなど、内容の豊富なエッセイを、多忙な留学生活の中で書いてくれました。感謝。

先日、帰国した伊藤君に早稲田大学で会いました。ロースクール出願のための試験を控えて、「大変です」とのことでした。そんな時期なので、留学生活をじっくり振り返っている暇が取れないようです。しかし、少し落ち着いたら、反省も含めて、留学生活の総括を聞きたいと思っています。